

佐山 展生氏

GCA サヴィアングループ 取締役
インテグラル 代表取締役

#140



紹介者



秋山 隆英氏
シービー・リチャードエリス取締役社長・CEO

苦しい状況下では、人はその過酷な「今」がいつまでも続くと思っても、望し、楽しく幸せな状況では、その素晴らしい「今」がいつまでも続くと思ってしまう。「今」は、いつまでも続く「今」はない。

サブプライム問題に端を発する深刻な金融危機を経て、本格的な大不況へと突入しようとしている。いわゆる超一流企業でさえ、契約社員をいさなり大量に解雇したり、会社の寮からすぐに退去せよという社会になってしまった。従業員を大切にすることが企業たるゆえんだっただけで、いつから業績が悪くなれば大量にレイオフするような

米国型社会になってしまったのだろうか。

米国は、20世紀の後半から、急速に金融機関への利益集中社会に転換していった。20代の若者が何千万円ももらう社会は正常とは思えず、非常に違和感があり危うく感じた。その予感はずばり現実のものとなった。事業会社あつての金融であるはずで、主客が逆転した社会は不安定である。この金融機関への利益集中は、日本でも進み、明らかに米国型社会に移行してきた。

また、日本の会社の利害関係者間の利益配分について、20世紀後半と21世紀に入ってからとを比較すると、従業員の給与は減少しているにもかかわらず、大企業の役員報酬

と配当が大幅に増加している。これも明らかに米国型へ移行していることの証しである。

米国は確かに、これまで、弱肉強食だが活力のある社会で、何度も苦境に陥っては素早く軌道修正し成長し続けてきた。その結果が、今日の製造業よりも金融に軸を置いた社会である。しかし、今回の金融危機で、それがいかに脆弱な社会基盤であったかが露呈した。今更、金融から製造業への回帰は極めて困難である。しかし、日本はまだ、製造業への回帰は可能だ。

この深刻な不況によって、ほとんどの市場は小さくなり、既存の企業数ではとてもすべての企業が生き延びていけない。倒産による企業数の減少だけではなく、業界再

いつまでも続く「今」はない。

編、経営統合が数多く起こるのは必然。この「経営統合」は、経営トップの専属事項である。この強烈な逆風のエネルギーを、業界再編に利用し、大きく飛躍する絶好の機会である。2009年は、通常の環境下では実現不可能な経営統合が可能になる稀有な年であり、それをなすのは経営のトップしかない。

ほとんどの人にとって、もう二度と経験することのない大不況の荒波の力を逆を利用して、「思い切った買収、経営統合等で強い企業基盤を確立する」こと、また、米国追随型社会から「製造業（含む農業）とサービス業に軸足を移した新たな日本型社会」への脱皮を図る絶好のチャンスである。いつまでも続く「今」はない。

次回

松井 忠三氏
良品計画 取締役会長

にご登場いただきます。